

令和5年度 社会科主題研究計画（案）

北九州市立あやめが丘小学校

1. 研究主題

地域を学びの糧に、確かな力を育てる社会科学習指導の工夫

2. 主題設定の理由

①児童の実態

素直で、様々な活動に生き生きと取り組むことができる子どもたちである。また、授業においては、落ち着いた態度で、友達や教師の話をよく聞きながら学ぶことができる子どもが多い。一方で、考えはあっても伝えることに抵抗感をもっていたり、誰かが話してくれるだろうと人任せにしまったりする様子が見られることがある。学びの場に身を置いてはいるものの、聞くことだけに終始している子どももいる。進んで話し合い、振り返り、これからは生かしていくことができるような、自分にとって価値のある学びへと深めていく必要があると考える。

②社会科のねらいから

グローバル化や人工知能・AIなどの技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの時代。子どもには自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められている。子どもがそのような「生きる力」を育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った学びの質を高める授業改善が必要である。

したがって、社会科の授業においては、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱を育成する学びのプロセスにおいて、問題解決的な学習過程の充実を図ることが重要となる。そのためには、子どもが見通しをもって学習に臨むこと、友達と関わり合う中で自分の学びが充実すること、自分の学びや成長を振り返ることの3つが大切なポイントとなる。また、社会科における「深い学び」とは「社会的な見方・考え方」を働かせることが重要であり、子どもたちが獲得した知識を関連付けたり統合したりして、最終的には目標に描かれた資質・能力の育成を図っていかなければならない。具体的には、次のような点に留意することが重要であると考えられる。

- 価値ある問いをもたせること。
- 問題解決的な学習過程の工夫。
- 主体的で個に応じた学習活動の工夫。
- 多様で効果的な表現活動の工夫。
- 協働的学びを深める話し合い活動の設定。
- 地域とのかかわりの重要性。

3. 主題の意味するもの

本校では、「地域を学びの糧に、確かな力を育てる社会科学習指導の工夫」を学校研究主題とし、学校研究主題について次のようにとらえている。

①「地域を学びの糧」について

「地域を学びの糧」＝地域のひと・もの・ことを生かし、地域とのかかわりを重視した学習活動を行う。

地域の社会的事象を学習の対象として、地域社会とのかかわりを重視した学習活動を展開していくなれば、次のようなメリットが得られるであろうと考えた。

- 子どもの積極的な関心を引き出し、問題意識につなげていくことができる。
- 子どもの直接経験や生活実感に沿って、思考や追究活動ができる。
- 調査方法や学習方法の習得につながる。
- 地域への関心、愛着、誇り、つながり、参画の意識を育てることにつながる。

②「確かな力」について

「確かな力」＝社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決することを通して、子ども一人一人の確かな資質・能力を育成すること。

社会科では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿った具体的な資質・能力を身に付けさせることが重要である。

そして、その際に必要なのが、「社会的見方・考え方」を働かせることである。社会的な見方・考え方とは、社会的事象の意味や特色を考察したり、問いを発見しその解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」であり、この社会的な見方・考え方の深まり（質の向上）が社会科でねらう資質・能力の確実な習得につながると考えられる。

そのためには、子どもが社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、そこから新たな問いを見いだしたりする問題解決的な学習過程の充実を図ることが何よりも重要である。

そこで、本校は、問題解決的な学習過程の中に地域とのかかわりを重視した学習活動を位置付け、自分と地域との密接なかかわりを実感しながら社会的な見方・考え方を深めさせることを通して、確かな資質・能力の育成を図っていかうと考えた。

4. 研究仮説

地域とのかかわりを重視した学習過程を構築する。その中で、子どもの思いを深める価値ある問いをもたせるとともに、五感を働かせる具体的な追究活動や思考を可視化し話し合いを活発化させる表現活動を工夫していけば、子どもの社会的な見方・考え方が深まり、確かな資質・能力を身に付けて、地域の一員としての自覚をもつことができる。

5. 仮説実証の手立て

①地域教材の工夫

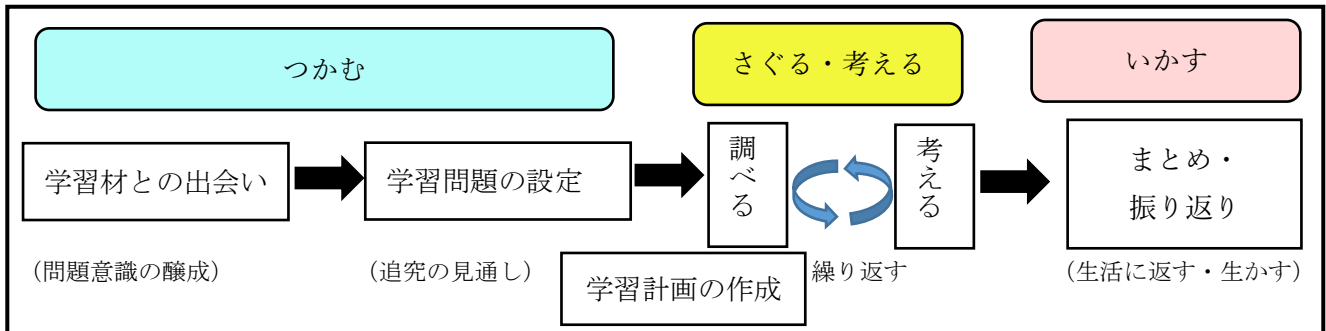
[地域教材のよさ]

- ①子どもの関心・意欲を高められる。
- ②資料や情報の入手・調査、直接の野外観察や聞き取りを行うことができる。
- ③地域に暮らす（暮らしてきた）人々の思いや願い、地域の発展に関わってきた人々の足跡などに触れられる。
- ④社会参画の意識を育てることができる。

[地域教材設定の視点]

- ①子どもの積極的な関心を引き出し、問題意識につなげられるようにする。
- ②具体的な調査方法や学習方法の習得につながるようにする。
- ③子どもの直接経験や生活実感、本物（人・もの・こと）との出会いに沿って、思考や追究活動ができるようにする。
- ④特色や課題を見出す「見方」、地域の課題に対する解決方法やよりよい地域の在り方を考える「考え方」を身に付けていくことにつながるようにする。

②問題解決的な学習過程の工夫（地域との関わりを深める）



(1) つかむ過程（子どもの思いを深める問いをもたせる）

- ①地域教材の活用による「身近さ」を大切にする。
- ②心が動く事象との出会いを工夫する。
- ③子どもとともに、学習計画を作成し、予想を立てる。
- ④子どもの問いを明確に位置づける。

(2) さぐる過程（五感を働かせる具体的な追究活動）

- ①調べる目的・内容を明確にする。
- ②個別最適な学び。
- ③できる限り地域に足を運び、本物（人・もの・こと）に触れる機会を設ける。

(3) 考える過程（思考を可視化し、話し合い活動や表現活動）

- ①自分の立場を表明させる。
- ②協働的な学びにつながる話し合い場面の重視。

(4) まとめ・振り返る過程

- ①学習問題に対する自分の考えと根拠。
- ②自分自身の学び方、社会的な見方・考え方の深まりについて考察する。

③社会的な見方・考え方を深める表現活動の工夫

(1) ホワイトボードの活用

社会的な事象には多様な「見方・考え方」があることを視覚的に気付ける機会とし、ペアやグループでの話し合い活動が単なる考えの発表に留まらず、他の子どもの考えを確認し、その意図を理解したり時には反論したり付け加えたりしながら、思考を練り上げるための媒体とし、新たな気付きや発想が書き込まれていくような、思考の深まりのある対話活動を行う。

(2) ICTの活用

①情報を集める。

写真や動画機能を用いて記録することで、効果的に情報収集を行うとともに、見えにくい情報を可視化する。

②収集した情報を整理し読み取りを考える。

繰り返し再生したり、拡大したりすることで情報を吟味する。

③考えた情報を話し合っまとめ発信する。

自分なりに考え分析した情報を他の児童と共有したり、他の児童の考えを参考にしたりする。

6. 研究構想図

